

09

栽培期間中の茎葉防除

一般にさとうきびの雑草管理は、植付直後から1～2ヶ月が有効である。さとうきびに絡みながら生育するヤブガラシ類の場合は、収穫前まで防除対策を継続しなければならない。そこで、除草剤の使用基準に基づき、2つの生育ステージに分けてヤブガラシ類の防除について紹介する。

(1) 植付時～生育初期 (2,4-PA 液剤散布による茎葉防除)

選択性除草剤である2,4-PA液剤は、さとうきびに薬害が生じる心配がなく、収穫90日前までに2回使用できる。他の雑草も合わせて防除をする必要があるときは、他の除草剤と併用して防除することも考慮する。



無処理区



2,4-PA 処理区

2,4-D「石原」アミン塩®の使用基準

適応場所	適応雑草名	使用時期	10アール当りの使用量		総使用回数	使用方法
			薬量 (g)	希釈水量 (L)		
—	畑地1年生広葉雑草 畑地多年生広葉雑草	植付後又は株出管理後30日以降、雑草生育期(草丈30cm以下)ただし <u>収穫90日前まで</u>	300～500	100～150	2回以内	雑草茎葉散布

どの作型でも収穫90日前までしか使用できません。

栽培期間中の茎葉防除

(2) 生育中期（グリホサートカリウム塩液剤散布による畦間処理）

ヤブガラシ類に対して高い殺草効果を有するグリホサートカリウム塩液剤をさとうきびの畦間で散布して防除する（栽培期間中は収穫 60 日前まで、2 回以内）。ただし、さとうきびに飛散すると枯死などの薬害を生じる可能性があるため、倒伏がなく、仮茎長 1.5 m 以上のときに散布し、薬剤が飛散しないよう注意する。もしくは、手作業による引き抜きをおこなう。



さとうきびにおいて、多回散布で登録がある
グリホサートカリウム塩液剤は、

ラウンドアップ・マックスロード®

のみです（平成 27 年 3 月現在）



グリホサートカリウム塩液剤の畦間散布における注意事項

- ・さとうきびの仮茎長が 150cm 以上の条件で散布する。
- ・さとうきびが倒伏した状態では散布しない。
- ・飛散防止カバーを利用する。

※薬剤がさとうきびに付着すると薬害が生じます。



飛散防止カバー



ブラッシングエース